

献呈の辞



世界的にも、国内的にもなかなか先の見えないなかで、2012年度も終わりに近づいています。そんな中であっても、2010年4月に文学部心理学科、人文学科社会学専攻とで専修大学七番目の学部人間科学部を新設してから早3年が経過し、順調に進んできました。2013年4月からは本学部は完成年度に入ります。さらに学部としての充実を目指さなければならない時に来ています。そんな中、人間科学部開設準備委員として尽力していただいた乾吉佑先生が、2013年3月をもってご定年退職をされることになりました。乾先生は1997年本学心理学科にご入職以来、16年間にわたって、心理学科の大きな柱の一つである臨床心理学の分野を先頭に立って担ってこられました。乾先生を、新学部完成年度を前にしてお送りしなければならないのは大変残念なことです。先生には、これからも人間科学部を見守っていただきたいと願っています。

乾先生は、1943年、東京都にお生まれになり、1962年4月に上智大学理工学部生物化学科に入学され、学部3、4年のゼミナールで、心と身体を繋ぐ卒業研究として「精神病行動と脳内の神経伝達物質の変化」をテーマとされたことが、今日の先生のご研究へと進まれることになりました。乾先生によりますと「実験で精神病行動を示したマウスについての行動変容と行動負荷量の変化と脳内神経伝達及びポルフィリン代謝量の研究」をされるために、心理学的に行動変容をどうとらえるのかを知るために、心理学の講義を聴講され、心理学に興味を持たれることになったとのこと。卒業研究に関わる実験を、ゼミの指導教授の計らいで、慶應義塾大学精神神経科の培養研究室で施行されたとのこと。ここで、先生は、精神分析学の同精神神経科心理研究室の小此木啓吾先生の目にとまり、精神神経科助手として受験することを勧められ、1966年3月に上智大学理工学部生物化学科を卒業後、慶應義塾大学医学部精神神経科教室に助手として入職されています。同時に早稲田大学第二文学部心理学専攻に学士入学されました。

学部4年間で専門の道筋はつけることができると聞いたことがありますが、乾先生は、まさにそのことを実践されたということが出来ます。人間科学部で学ぶ学生の皆さんも、大学4年間というのが、どれほど大切な4年間かを、この乾先生のご研究の始まりから学んでほしいものだと思います。

先生は、早稲田大学在学中に病気で1年間の休学を余儀なくされ1969年3月に卒業されました。同年4月には武田病院に非常勤医局員として入職され1980年3月まで勤務されました。1970年4月から1982年3月まで明治大学学生相談室嘱託相談員を務められています。また、1973年3月から1982年3月まで新潟県・田宮病院の診療教育非常勤顧問を務められています。1982年4月から1997年3月まで(株)日本IBM健康管理室嘱託カウンセラーを務められました。こうした心理臨床家としての実務実績を積まれる中で、1984年には国際精神分析学会公認精神分析家 (Psychoanalyst of International Psychoanalytic Association) の称号を得られ、2000年には日本精神分析学会認定スーパーヴァイザー、認定心理療法士となっておられます。1993年4月からは赤坂アイクリニック(精神療法)を開設され、今日まで診療を行われています。

こうした精神療法家としての実務実績を積み、ご研究も進められていく中で、1975年7月から2007年3月までは慶應義塾大学医学部精神神経科において非常勤として精神神経科研修医の教育にあたられ精神分析精神療法を集中講義で担当されました。さらに日本赤十字女子短期大学、上智大学文学部心理学科、同大学院、広島大学大学院教育研究科、京都大学大学院教育学研究科、大阪大学院人間科学研究科、名古屋大学大学院教育発達科学研究科において精神分析学、臨床心理学等の授業を担当されました。

そして1997年4月、本学文学部教授として就任され、心理学科に所属されました。本学在職中は、心理教育相談室長(4年)、学生相談室員(4年2か月)、入学試験委員会委員(2年)、図書館委員会委員(3年)、社会知性開発研究センター研究員(2年)を歴任され、人間科学部開設の際には新学部設置準備委員会委員を務められ

ました。そして2010年4月人間科学部開設に伴い、人間科学部教授に就任されました。また、本学心理学科および大学院心理学専攻臨床心理学領域の発展に多大なお力を注がれてきました。本学心理教育相談室は、大学院心理学専攻臨床心理学領域の院生の心理臨床実習教育にとって重要な施設ですが、乾先生が本学に着任されて以降、格段に充実いたしました。また、本学大学院心理学専攻臨床心理学領域が、1997年に、(財)日本臨床心理士資格認定協会から第1種指定校として認定されましたが、この年に本学に着任されました乾先生のご尽力により第1種指定校としての充実を図っていくことができました。本学大学院修了生が多面で臨床心理士として携わっていることが、その証であることは言うまでもありません。以上、述べましたように、乾先生は、本学の教育並びに学術に対して多大な貢献をされました。

学部生の中から始まる乾先生のご研究は、精神分析学を心理臨床の世界に応用されていくことを目的にされたものだと伺いました。そうした研究のご成果として『医療心理学の実践の手引き』(2007, 金剛出版), 『思春期・青年期の精神分析的アプローチ』(2009, 遠見書房), 『働く人と組織のための心の支援』(2011, 遠見書房)をまとめておられます。乾先生は、優れた心理臨床家であり、研究者であられ、わが国精神分析学派を代表するお一人ですが、また、多くの心理臨床家の指導にあたられ、わが国の心理臨床学の発展に寄与されてきました。「臨床心理士」という資格は、世の人びとの知るところとなっていますが、乾先生は、1982年に(社)日本心理臨床学会が創設された時から7期にわたって理事を務められ20年間専門職の基盤としての臨床心理学の学問研究と基盤づくりに関与されています。また、1988年に臨床心理士の認定資格が成立すると、翌年に(社)日本臨床心理士会を創設され、かつ全国の都道府県臨床心理士会を創設され、国家資格による臨床心理士の資格制度確立に日本臨床心理士会統括副会長及び理事として携わってこられました。さらに、2001年からは、日本臨床心理士養成大学院協議会を立ち上げられ、現在166校の専門職大学院及び第I種、II種指定校の理事、監査役として大学院教育の教育指針を検討する役割を担っておられます。以上のご研究と学会へのご功績により、2004年には日本精神分析学会功労賞を、2009年には、日本精神分析学会賞(小澤賞)を、2010年には、日本心理臨床学会学会賞を受賞されています。

こうした先生のご研究、心理臨床家としてのご活躍を見るときに、先生の専修大学教員としての研究生生活は今年度で終了されるとしても、まだまだ、これから研究を発展させて行かれるのではないかと考えています。

4号館の廊下で乾先生にお会いすると、お元気な大きなお声で「おはようございます」といつも声をかけてくださいました。これからは、それもかなわず、寂しいですが、乾先生は、ご退職後も後進の指導にあたられるとお聞きしました。先生には、ご健康に留意され、ますますのご活躍を祈念し、献呈の辞と致します。

2013年3月

人間科学部長 宇都 榮子